

2024 年度
横浜みどりアップ計画
実績報告書【巻末資料】

横浜みどりアップ計画

横浜みどりアップ計画の評価・提案

横浜みどりアップ計画市民推進会議 2024 年度報告書



横浜みどりアップ計画市民推進会議

2025 年 10 月

目 次

1 はじめに.....	1
2 横浜みどりアップ計画市民推進会議について	2
3 市民推進会議 2024～2025 年度の活動実績.....	3
(1) 活動の概要	
(2) 活動の詳細内容	
ア 市民推進会議(全体会議)	
イ 施策別専門部会	
ウ 広報・見える化部会	
エ 調査部会(現地調査)	
4 みどりアップ計画の評価・提案.....	10
◆計画の体系	
(1) 柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む	11
施策1 まとまりのある樹林地の保全・活用	
(2) 柱2 市民が身边に農を感じる場をつくる	15
施策1 農に親しむ取組の推進	
施策2 「横浜農場」の展開による地産地消の推進	
(3) 柱3 市民が実感できる緑や花をつくる	21
施策1 市民が実感できる緑や花の創出・育成	
施策2 ガーデンシティ横浜の更なる推進	
(4) 効果的な広報の展開	26
市民の理解を広げる広報の展開	
(5) その他事項に対する評価・提案	28
5 市民推進会議委員名簿.....	29
6 市民推進会議委員からのコメント	32
7 広報・見える化部会からの情報提供	38

1 はじめに

この報告書は、「横浜みどりアップ計画市民推進会議」の 2024 年度から 2025 年度にかけての活動実績、および4期目となる「横浜みどりアップ計画[2024-2028]」の事業・取組に対する市民推進会議の評価・提案をまとめたものです。

横浜みどりアップ計画では、「横浜みどり税」を財源の一部に活用し、樹林地や水田の保全、身近な緑の創出など、様々な緑の保全と創造に取り組んでいます。

市民推進会議は現地調査や施策別部会での議論等の活動を通して、このみどりアップ計画に対して市民目線での評価・提案を行っています。

2024 年度はみどりアップ計画が第4期に切り替わって最初の年となり、これにともない、市民推進会議も新たなメンバーでの活動をスタートしました。

2024 年 10 月に行われた現地調査では、みどりアップ計画の表紙裏にも掲載されている寺家ふるさと村や、地域緑化の現場に実際に赴き、横浜の特徴あるみどりや市民生活との関りについて理解を深めました。

各会議では非常に熱心な議論が交わされ、新メンバー各々の緑に対する熱い思いを感じ、市民の皆様方の期待に応えるべく責任に身が引き締まる思いです。

また市民推進会議では、市民委員を中心としたメンバーで「市民目線での情報発信のあり方」についても検討しています。どうすれば市民に“横浜のみどり”の実態や税の使い方をご理解いただけるか、何度も議論を重ね、より市民に寄り添った方法を模索しています。

みどりアップ計画は、超過課税である「横浜みどり税」を財源の一部として活用することで推進しています。みどりを取り巻く環境の変化は、近年の温暖化やゲリラ豪雨など激しく変化をしています。それらを受け止め、みどりの状態や、利用の仕方、維持管理者の労働時間等にも配慮が必要な時代になってまいりました。市民のみどりに対するニーズをしっかりととらえ、より多くの市民がみどりを実感でき、みどりの機能を感じていただけるように取組を進めることが大切です。

2027 年に開催予定の GREEN×EXPO 2027 も見据え、より多くの市民にと共に多様性に富んだみどりを育み、その成果を享受することで、緑地が増えるだけでなく、横浜のまち全体の美しさや魅力が増し、国際都市としての横浜市がさらに発展していくことを期待しています。

横浜みどりアップ計画市民推進会議
座長 池邊 このみ

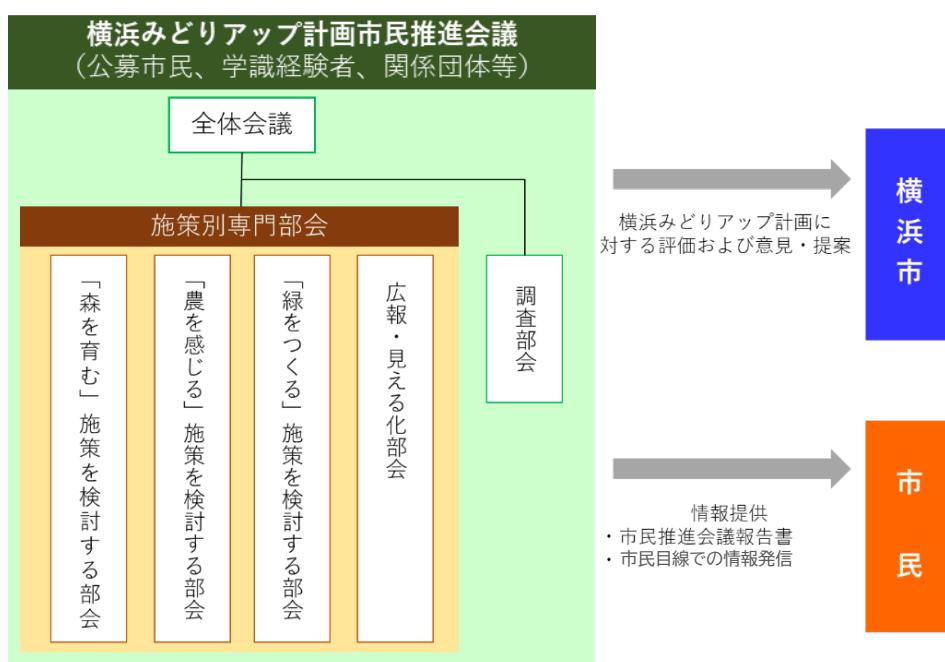
2 横浜みどりアップ計画市民推進会議について

「横浜みどりアップ計画市民推進会議」は、市民参加により、横浜みどりアップ計画の評価や意見・提案、市民への情報提供などを行うことを目的として、2009 年に設置されました。2012 年からは、条例に基づく附属機関として位置付けられています。

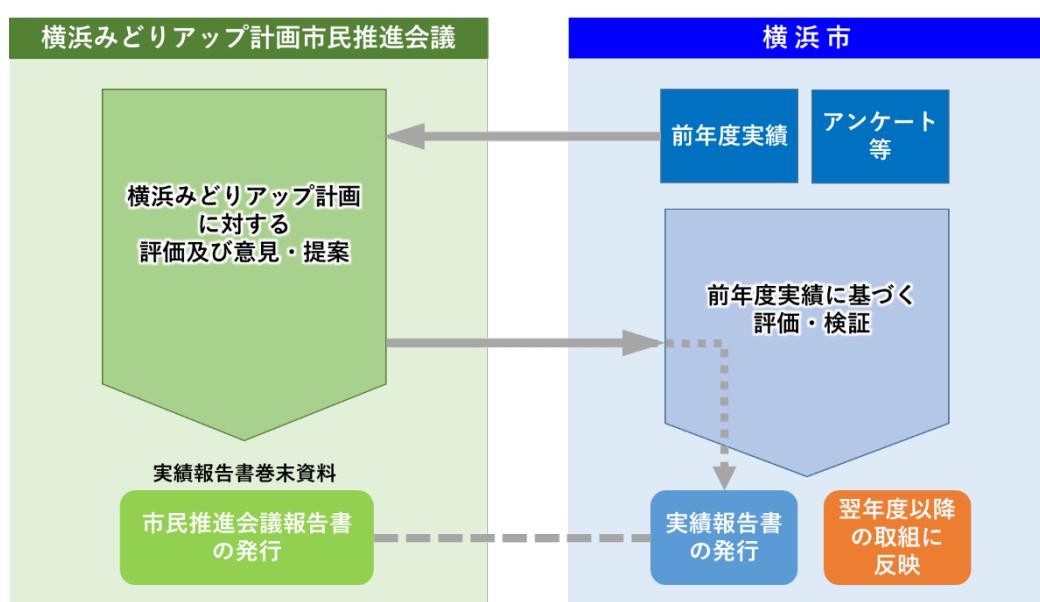
市民推進会議では、前年度の実績を踏まえて全体会議や施策別専門部会で評価及び意見・提案を行うとともに、みどりアップ計画の取組を行っている現場を視察し、現状の検証や関係する団体、市民の皆様と意見交換を行っています。

こうした評価や提案を報告書としてまとめ、翌年度以降の市の取組にも反映しています。

なお、2024 年度からは新たな委員も加わり、公募市民、学識経験者、関係団体、町内会・自治会の代表など、計 17 名で構成され、活動を行っています。(29 ページに委員名簿を掲載)



◆ 実績検証の体系図



3 市民推進会議 2024～2025 年度の活動実績

(1)

活動の概要

ア 横浜みどりアップ計画に対する評価及び意見・提案

2024 年度から始まった「横浜みどりアップ計画[2024-2028]」の内容や進捗を確認しながら意見交換をし、本報告書に評価・提案をとりまとめました。

また、みどりアップ計画の取組について現地視察を行い、現状の検証や関係団体の皆さんと意見交換を行いました。

イ 市民への情報提供

「みどりアップ計画」や「みどり税」について幅広く市民の皆さんに知っていただくため、情報提供のあり方について検討し、ソーシャルメディアを活用した市民目線の情報発信を行いました。



活動の様子(全体会議)



活動の様子(現地調査)

◆ 2024 年度報告書発行までの活動実績

	2024 年度報告書発行に向けた活動実績	市民への情報提供
R6 10月	第 42 回横浜みどりアップ計画市民推進会議 第 24 回調査部会	
R7 1月		第 57 回広報・見える化部会
3月	第 43 回横浜みどりアップ計画市民推進会議	
4月		第 58 回広報・見える化部会
5月～6月	施策別専門部会 第 18 回「森を育む」部会 第 18 回「農を感じる」部会 第 18 回「緑をつくる」部会 第 59 回広報・見える化部会	
8月	第 44 回横浜みどりアップ計画市民推進会議	HP・SNS による発信
10月	報告書発行	

(2)

活動の詳細内容

ア 市民推進会議(全体会議)

市民推進会議の全体会議において、部会の構成や調査の実施など年間の活動内容を確認し、みどりアップ計画の内容、進捗状況について説明を受けて、質疑応答、意見交換を行いました。

第42回市民推進会議(2024年10月25日)

- ・座長、副座長の選任について
- ・横浜みどりアップ計画について
- ・横浜みどりアップ計画市民推進会議について

第43回市民推進会議(2025年3月25日)

- ・横浜みどりアップ計画の進捗について
- ・横浜みどりアップ計画[2024-2028]の実績報告書について
- ・市民推進会議 2024 年度報告書骨子案について

第44回市民推進会議(2025年8月4日)

- ・横浜みどりアップ計画 2024 年度の事業実績について
- ・市民推進会議 2024 年度報告書(案)について



全体会議の様子

イ 施策別専門部会

計画の柱ごとに施策別専門部会を設置し、事業分野ごとに詳細に説明を受け、意見交換を行いました。

※2014 年度からは「広報部会」、「見える化部会」を合わせ、「広報・見える化部会」を設置しているため、「効果的な広報の展開」事業に対する評価・提案については、「広報・見える化部会」にて実施しています。

第18回「森を育む」施策を検討する部会(2025年5月27日)

- ・部会長の選任について
- ・「森を育む」施策の評価・提案について



第18回「農を感じる」施策を検討する部会(2025年6月12日)

- ・部会長の選任について
- ・「農を感じる」施策の評価・提案について

第18回「緑をつくる」施策を検討する部会(2025年5月28日)

- ・部会長の選任について
- ・「緑をつくる」施策の評価・提案について

各部会の様子

ウ 広報・見える化部会

2014 年度からは「広報部会」、「見える化部会」を合わせ、「広報・見える化部会」を設置しているため、施策別専門部会としてみどりアップ計画の広報について評価・提案を行うとともに、みどりアップ計画やみどり税についての情報提供のあり方の検討や情報発信を行っています。

2024 年度からは、これまでの紙媒体での広報誌に代わる新たな情報発信のあり方を検討し、ソーシャルメディア「note」に「Yokohama みどりアップ Action」を公開しています。

委員自らみどりアップ計画の取組現場を取材し、市民目線の現場リポートをお届けしています。

第 57 回広報・見える化部会(2025 年1月 22 日)

- ・部会長の選任について
- ・市民目線での情報提供のあり方について

第 58 回広報・見える化部会(2025 年4月 22 日)

- ・市民目線での情報提供のあり方について

第 59 回広報・見える化部会(2025 年5月 26 日)

- ・広報事業の評価・提案について
- ・市民目線での情報提供のあり方について



取材の様子



広報・見える化部会の様子



Yokohama みどりアップ Action

「Yokohama みどりアップ Action」は 2019 年度から 2023 年度までの間に、広報誌として 1 ~9 号が発刊されました。

2024 年度からは、より多くの方々に横浜のみどりの魅力をお届けするため、ソーシャルメディア「note」に発信の場を移し、「広報・見える化部会」の 7 人が市民目線で“横浜のみどり”的魅力を伝えています。

(38 ページにこれまでの実績を掲載)



https://note.com/yokohama_m_act



工 調査部会(現地調査)

みどりアップ計画の取組を行っている現場を視察し、市職員や地域で活動されている方々と意見交換をしました。

第24回調査部会

日 時 2024年10月25日(金) 午後1時00分～午後5時00分

参 加 者 市民推進会議委員13名

調査場所 ・中川緑と水と歴史をつなぐ会(都筑区)

・寺家ふるさと村(青葉区)

・寺家ふるさとの森(青葉区)

寺家ふるさとの森



柱1 森の多様な機能に着目
した森づくりの推進 等

中川緑と水と歴史をつなぐ会 (中川西地区)

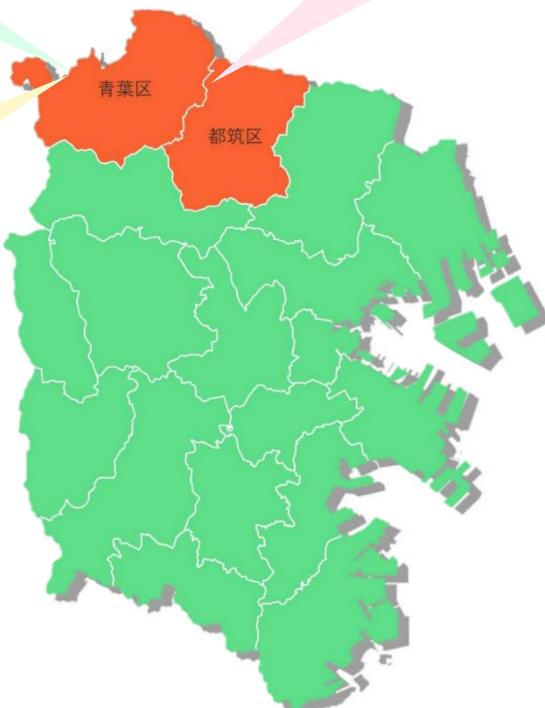


柱3 地域緑のまちづくり

寺家ふるさと村



柱2 市民が農を楽しみ支援
する取組の推進 等



(ア) 中川西地区(中川緑と水と歴史をつなぐ会)

都筑区で、地域が主体となって緑化を進めている現場を見学し、中川緑と水と歴史をつなぐ会の方々から、緑化計画や活動の概要、これまでの取組などについて説明を受けました。“地域に愛される回廊「緑と水と歴史をつなぐ散歩道づくり」”を目標に、大学とも協力して地域の魅力アップに取り組んでいました。

みどりアップ計画の取組 「地域緑のまちづくり」

・「緑や花でいっぱいの街をつくりたい」という地域の思いを実現するため、計画作り、花や木の植栽、維持管理など、緑のまちづくりの取組を横浜市が支援

推進団体名：中川緑と水と歴史をつなぐ会

計画名：早渕川・老馬谷ガーデンを中心とした緑と水と歴史をつなぐ散歩道づくり

助成期間：2022年度～2024年度



早渕川沿いの散歩道



隣接する住宅と協力した植栽づくり



活動団体からの説明の様子



オリジナルのプレート

委員からの声

○住民の方々の努力やつながりがあってこそ、維持できるのだと実感しました。

○このような取組を続けていくためにも、今後は各組織の連携、市としてのサポート体制の検討が必要だと感じました。

○助成前から活動しており、長い歴史を経て“みどり”が保全されてきたことを実感しました。

○戸建て住宅地や河川敷等多種多様な植栽地で、場所に応じた対処をされていることにびっくりしました。

○宿根草を使う、植栽に立体感を出す等の工夫をするとさらに景観が良くなると感じました。

(イ) 寺家ふるさと村

青葉区西部に位置する「寺家ふるさと村」を視察しました。

昔ながらの横浜の田園風景を次世代に残すための取組や、地域活性のための工夫等について説明を受けました。

みどりアップ計画の取組 「市民が農を楽しみ支援する取組の推進」

- ・総合案内所「四季の家」を農を楽しむ拠点とし、農体験教室などを実施

みどりアップ計画の取組 「水田の保全」

- ・良好な水田景観保全のための水路等の整備支援

みどりアップ計画の取組 「農景観を良好に維持する活動の支援」

- ・まとまりのある農地を良好に維持する団体の活動への支援



雑木林の丘に挟まれた「谷戸田」



担当者からの説明の様子

委員からの声

○里山や農業について、首都圏ではあまり知らない方々も多いので、こういう場所を広報することが重要だと考えます。

○稻作あってこそその風景なので、そのことも市民が理解しやすいような広報が必要ではないでしょうか。

○谷戸田のある里山の風景がすばらしい。

○周辺が都会化していく中で、次世代まで今の自然のままの姿を残していくためには、地権者、地域住民、行政の協力が不可欠だと感じました。

○田んぼ、畑、果樹園と、ある意味横浜の農業の魅力をワンスポットで体感できる場所です。その強みを広報にも生かしてほしいと感じました。

○お食事処や川沿い近くにサイクルラックがあると、ロードバイクが来やすくなり、知名度向上や地場産食材を食べる機会につながるのではないかでしょうか。

○良好な農景観や原風景の維持には、農業経営の維持発展が不可欠であると感じました。

○四季の家内の、生き物や自然に関する分かりやすい展示が良かったです。

(ウ) 寺家ふるさとの森

寺家ふるさと村内にある市民の森、「寺家ふるさとの森」を視察し、森の特徴や維持管理の方法について説明を受けました。

みどりアップ計画の取組 「森の多様な機能に着目した森づくりの推進」

- ・森が持つ多様な機能が発揮できるように、利用者や樹林地周辺の安全にも配慮しながら、森の維持管理を推進

みどりアップ計画の取組 「森に関わるきっかけづくり」

- ・「ウェルカムセンター」として、総合案内所「四季の家」から森の情報を発信



原風景の残る森の内部



森の縁辺部

委員からの声

- 寺家ふるさとの森は自然そのままの森がそこにあると感じました。
- 平日の夕方なのに、散歩の方々が多くいらっしゃるのはびっくりしました。各地域にもこのようないい場所ができたら素敵なまちづくりになるのではないかでしょうか。
- さまざまな企画を通して森に入り自然と触れ合う機会を多く設けるなど、森を育むというコンセプトに沿った取組であると感じました。
- この森について分かるような情報発信等、現地に何か工夫があるとうれしい。
- 愛護会が無いとのことだが、日常の保全管理を市で行うのは現実的ではない気がします。日常の保全管理体制を整備することが課題であると感じました。
- ふるさと村制度と市民の森制度をうまく組み合わせて谷戸やため池を保全していることは素晴らしい。

4 横浜みどりアップ計画の評価・提案

市民推進会議では、みどりアップ計画の柱1「市民とともに次世代につなぐ森を育む」、柱2「市民が身近に農を感じる場をつくる」、柱3「市民が実感できる緑や花をつくる」の施策と、みどりアップ計画を市民の皆さんに周知するための「効果的な広報の展開」について、現地調査で活動団体などからいただいた意見も踏まえて、評価・提案を行いました。

◆ 計画の体系

柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

施策1

まとまりのある
樹林地の保全・活用

- 事業① 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り
- 事業② 良好的な森の育成
- 事業③ 森に関わる多様な機会の創出

柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

施策1

農に親しむ
取組の推進

- 事業① 良好的な農景観の保全
- 事業② 農とふれあう場づくり

施策2

「横浜農場」の展開による
地産地消の推進

- 事業③ 身近に農を感じる地産地消の推進
- 事業④ 市民や企業と連携した地産地消の展開

柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

施策1

市民が実感できる
緑や花の創出・育成

- 事業① まちなかでの緑の創出・育成

施策2

ガーデンシティ横浜の
更なる推進

- 事業② 緑や花があふれる地域づくり
- 事業③ 子どもを育む空間での緑の創出・育成
- 事業④ 緑や花による魅力・賑わいの創出・育成

効果的な広報の展開

- 事業① 市民の理解を広げる広報の展開

(1)

柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

森(樹林地)の多様な役割や機能が発揮されるよう、緑のネットワークの核となるまとまりのある森を重点的に保全するとともに、保全した森を市民・事業者とともに育み、次世代に継承。

施策1

まとまりのある樹林地の保全・活用

事業① 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

(1) 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

事業② 良好な森の育成

(1) 森の多様な機能に着目した森づくりの推進

(2) 指定した樹林地における維持管理の支援

事業③ 森に関わる多様な機会の創出

(1) 森づくりを担う人材の育成

(2) 森づくり活動団体への支援

(3) 森に関わるきっかけづくり

(4) 森の多様な楽しみづくり

2024年度実績報告書 関連ページ



●取組の評価・検証

p.3-2～p.3-17

●各区の実績

p.4-2～p.4-72



事業①

特別緑地保全地区に新規指定された樹林地
羽沢町具行特別緑地保全地区(神奈川区)



事業② 森の多様な機能に着目した森
づくりの推進 古橋市民の森(泉区)



事業③ 森づくりを担う人材の育成
新治市民の森(緑区)



事業③ 森に関わるきっ
かけづくり 森のネイチャ
ーゲーム(瀬谷区)

◆ 施策1についての評価・提案

事業①について

緑地保全制度による指定の拡大・市による買取りについて

- ・樹林地を見ても、そこが緑地保全制度で指定された場所なのか、また、横浜市の管理している場所なのか等は分かりません。樹林地の状況を市民に分かりやすく伝える工夫などについて、引き続き検討が必要です。
- ・緑地保全制度に関する案内をいただきますが、制度が複雑でわかりにくいと感じています。パンフレット等を用いての説明に加えて、市による説明会や、農業協同組合など土地所有者に身近なところからの説明を通じて、積極的な制度案内に取り組んでください。

保全した樹林地の整備について

- ・買取り直後や手続中の樹林地では、立ち入ってはいけない場所に入り込んでしまう場合もあるようです。まずは、柵や看板の設置などにより、市が買い取ったまたは買取り手続き中の樹林地であることをわかりやすく周知することを検討してください。

事業②について

森づくりの推進、指定した樹林地の維持管理の支援について

- ・個々の実情にあわせて策定する保全管理計画は、他都市ではあまり見ない取組として評価しています。引き続き推進してください。
- ・地球温暖化の影響により、樹林地の状況が変化しつつあります。樹林地の抱える課題の変化に対応したみどり税の活用を検討してください。
- ・活動している人々は、各々が動植物に関する調査やデータの蓄積があります。一方で、そのデータを活用にまで至っていない状況もあります。個々の生物データを集積するシステム等があれば、データの活用の可能性が広がるのではないかでしょうか。
- ・「良好な森」とは、市民が安全・快適に入れて楽しめる場だと考えています。動植物を育む手つかずの自然を残しつつ、散策路の周りは明るくする等の先を見据えた維持管理を引き続き進めてください。

事業③について

森に関わるきっかけづくり(イベント・情報発信)について

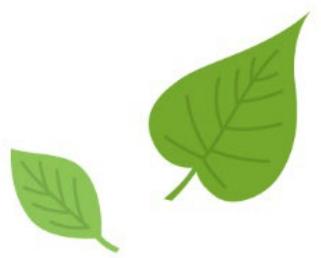
- ・市民の森のような開放されている樹林地では、山野草の盗掘やごみのポイ捨てといったマナー違反も見受けられます。また、最近ではトレイルラン等のスポーツ利用されている方もおり、すれ違いの際危険な場面も見受けられます。利用者がお互い快適に過ごすため、樹林地を利用する上でのルールやマナーが市民にしっかりと伝わるよう、分かりやすい周知の方法を検討してください。
- ・これまで樹林地に関わってこなかった人にも知ってもらえるよう区役所等の人が集まる場所に市民の森ガイドマップを配架することで、興味を持ってもらうための情報発信につながると考えています。
- ・市民の森ガイドマップや保全管理計画に加え、個々の樹林地についての紹介や集めた情報も分かりやすく発信していけば、若者が樹林地へ興味を持つきっかけになるのではないかでしょうか。

横浜みどりアップ計画の第4期[2024-2028]がスタートしました。第1期から第3期の「森を育む」施策を検討する部会において実感するのは、各種の緑地保全制度による指定の拡大、横浜市による買取りの保証によって森の保全活動が定着してきたことです。同時に、これらの森を育むための人材育成や森づくり活動団体への支援も着実に実行されています。緑の保全は、市民と行政による長い時間がかかる取組ですが、多くの市民の共感を得ています。また、市民による森の楽しむ機会も増加しています。

横浜みどりアップ計画の第4期[2024-2028]においても、横浜のみどりアップ計画が絶えることなく実行されることを評価すると同時に、次世代にこの活動をどのように継承してゆくかが今後の大きな課題です。とりわけ、市民の皆さんのが森に関わる多様な機会の創出が大事だと思います。市民とともに横浜みどりアップの活動を広めましょう。

望月 正光





良好な景観形成や生物多様性の保全など、農地が持つ環境面での役割や機能に着目した取組、地産地消や農体験の場の創出など、市民と農の関わりを深める取組を展開。

施策1

農に親しむ取組の推進

事業① 良好的な農景観の保全

- (1) 水田の保全
- (2) 特定農業用施設保全契約の締結
- (3) 農景観を良好に維持する活動の支援
- (4) 多様な主体による農地の利用促進

2024年度実績報告書 関連ページ



- 取組の評価・検証
p.3-18～p.3-32
- 各区の実績
p.4-2～p.4-72

事業② 農とふれあう場づくり

- (1) 様々な市民ニーズに合わせた農園の開設
- (2) 市民が農を楽しみ支援する取組の推進



事業① 水田の保全(青葉区)



事業① 農景観保全整備
(土砂流出防止対策)(都筑区)



事業② 柴シーサイド恵みの里
じゃがいも堀り(金沢区)



事業② 市民農業大学講座
ブドウの管理作業(保土ヶ谷区)

◆ 施策1についての評価・提案

事業①について

水田の保全について

- ・みどりアップ計画の支援がなければ水田はここまで残っていなかったと思います。水田の持つ生産機能に加え、生物多様性の保全などのさまざまな機能を発揮していくためにも、保全すべき水田を今後も残せるよう支援の継続をお願いします。

農景観を良好に維持する活動の支援について

- ・農地やその周辺環境を維持する地域の団体が高齢化し、活動の継続が困難になることが予想されるため、人材育成への支援があると良いと思います。
- ・良好な農景観は、農家の耕作や管理により成り立っていることを市民に理解していただけるよう、広報や見せ方を工夫してください。

事業②について

様々な市民ニーズに合わせた農園の開設について

- ・農園付公園は、トイレなど、必要な施設がしっかり整備されており、自由に栽培や収穫ができる農体験の場として、利用のハードルが低いと思います。ある程度の整備費用がかかるなどの課題はあるかと思いますが、ぜひ開園に結び付けてください。

市民が農を楽しみ支援する取組の推進について

- ・農のコーディネーター事業では学校現場で横浜の都市農業を体感してもらう機会を提供していますが、そこをきっかけに、子どもたちの関心が樹林地や縁などへ広がることも考えられますので、他の取組とも連携しながら進めてください。
- ・栽培や収穫だけではなく、料理して食べることなども加えて体験に広がりをもたせることにより、横浜産のさらなる周知につながるのではないかと思います。
- ・農体験の参加者が、体験を通じて実際に行動変容に繋がったか検証できるよう検討をお願いします。
- ・学校での食育のニーズは高まっている一方、先生たちからは「食育をやりたくてもどこにお願いしたらいいかわからない」という声も多く聞かれるため、相談の受入れや支援体制の整備について検討をお願いします。

施策2

「横浜農場」の展開による地産地消の推進

事業③ 身近に農を感じる地産地消の推進

(1) 地産地消にふれる機会の拡大

事業④ 市民や企業と連携した地産地消の展開

(1) 地産地消を広げる人材の育成・支援

(2) 市民や企業等との連携

2024年度実績報告書 関連ページ



- 取組の評価・検証
p.3-33～p.3-41
- 各区の実績
p.4-2～p.4-72



事業③ にいはる長屋門朝市
(緑区)



事業③ 11月地産地消月間における
キャンペーン



事業④ はまふうどコンシェルジュ講座における
農作業体験(泉区)



事業④ 横浜赤レンガと連携した「おいも万博」
における街なか収穫体験の実施(中区)

◆ 施策2についての評価・提案

事業③について

地産地消にふれる機会の拡大について

- ・地域でとれた農畜産物やその加工品などが集まるマルシェは大変良い取組のため、さまざまな地域でできるよう、さらなる支援の検討をお願いします。
- ・他区局とも連携し、さまざまな媒体で PR が実施されていますが、今後は効果検証も踏まえた広報についても検討してください。

事業④について

地産地消を広げる人材の育成・支援について

- ・はまふうどコンシェルジュは、さまざまな農家とつながることができます、それ以外の場所での認知度は低い状況です。はまふうどコンシェルジュと企業等との交流や、学校への情報提供など、交流や周知を広げていただくようお願いします。

市民や企業等との連携について

- ・企業等との連携は PR 効果が大変大きい取組です。横浜に根差す企業等を応援していくことが横浜農業の応援にもつながるような、企業等と農家とが win-win の関係になるような取組をさらに広げてください。

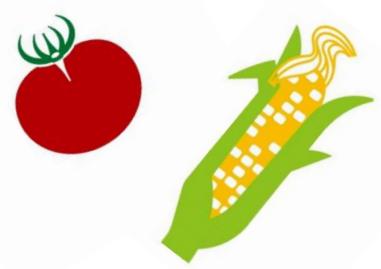
みどりアップ計画のなかで、農業が関わる取組は大きくわけると、(1)良好な農景観を生み出す農地の保全と、こうした農業に市民が親しみを感じるための(2)地産地消の推進になります。横浜市には限られたエリアにしか水田が残されていませんが、こうした水田の保全や遊休農地の復元支援はじめ、都市部から消えかけている農地をできるだけ活用できる状態にする取組が進められています。また、農業者のみならず、市民も農業に取り組むことができる収穫体験農園や市民農園、農園付公園の整備に加え、横浜の里山風景を色濃く残すふるさと村や恵みの里での体験教室の実施などが展開されています。

みどり税は充当されていないものの、市民が地産地消にふれる機会を増やすために、直売所支援のほか、人材育成や企業連携にも積極的に取り組んでいます。こうしたみどりアップ計画での各種施策は地道ながら、「横浜農場」を確実に支えています。横浜にある農業をめぐる環境や情勢は厳しいと言わざるを得ませんが、市民による積極的な関わりがないと現状維持も難しくなります。

部会では、こうした各種施策の効果を高く評価していますが、これらの施策をベースにしつつも、より一層、横浜農場の活性化を目指すための意見が多くかわされています。引き続き、部会のみなさま、さらには、担当職員のみなさまと横浜農場の未来を見据えて取り組んでいきたいと考えています。

池島 祥文





(3)

柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

街の魅力を高め、賑わいづくりにつながる緑や花、市民が実感できる緑の創出。また、地域で緑を創出・継承する市民や事業者との取組を支援。

施策1

市民が実感できる緑や花の創出・育成

事業① まちなかでの緑の創出・育成

- (1) シンボル的な緑の創出・育成
- (2) 街路樹による良好な景観づくり
- (3) 公開性のある緑空間の創出支援
- (4) 建築物緑化保全契約の締結
- (5) 名木古木の保存

2024年度実績報告書 関連ページ



- 取組の評価・検証
p.3-42～p.3-51
- 各区の実績
p.4-2～p.4-72



事業① 公有地化によるシンボル的な緑の創出・育成
北寺尾六丁目サムエル公園(鶴見区)



事業① 街路樹による良好な景観づくり
石崎川プロムナード(西区)



事業① 公開性のある緑空間の創出支援
みなとみらい複合施設(西区)



事業① 名木古木の保存
新規指定樹木(栄区)

◆ 施策1についての評価・提案

事業①について

シンボル的な緑の創出・育成について

- ・公共施設の隣接地及び近接地など、ベンチや緑陰があれば、少しのスペースでも住民の憩いの場となりうる可能性があることを念頭に置き、引き続き、緑の創出・育成を進めてください。

街路樹による良好な景観づくりについて

- ・街路樹は市民の目に触れやすく、関心が高い場所です。街路樹の生育状況や整備条件などもあると想いますので、伐採せざるを得ない場合は、「なぜ伐採しなければならないのか」「その後どのように植え替えるのか」を、市民に伝え十分な理解を得ることも重要と考えます。

事業② 緑や花があふれる地域づくり

- (1) 地域緑のまちづくり
- (2) 地域に根差した緑や花の楽しみづくり
- (3) 人生記念樹の配布

2024年度実績報告書 関連ページ



- 取組の評価・検証
p.3-52～p.3-63
- 各区の実績
p.4-2～p.4-72

事業③ 子どもを育む空間での緑の創出・育成

- (1) 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成

事業④ 緑や花による魅力・賑わいの創出・育成

- (1) 都心臨海部等の緑花による魅力ある空間づくり



事業② 地域緑のまちづくり
野庭団地地区(港南区)



事業② 地域に根差した緑や花の楽しみづくり
球根ミックス花壇づくり講習(山下公園、中区)



事業③ 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成
太尾保育園ビオトープ整備(港北区)



芝生講習会(本郷特別支援学校、栄区)



事業② 人生記念樹の配布(神奈川区)



事業④ 都心臨海部等の緑花による魅力
ある空間づくり(新港中央広場、中区)

◆ 施策2についての評価・提案

施策2について

- ・イベントや事業を行う際には、それがみどりアップ計画の事業であることが分かるように案内することや、花苗を配布する際などにもみどりアップ計画の事業周知をしっかり行うことなど、関わる人に対して一步先まで伝わる情報発信を心がけてください。

事業②について

地域緑のまちづくりについて

- ・「地域緑のまちづくり」の支援終了後に活動が廃れてしまうことが無いよう、現在の支援額の妥当性も踏まえて、より市民の緑化に対する希望に添えるように検討を進めてください。
- ・学校関係者や福祉関係者、若い世代などさらに多くの人に参加していただき、コミュニティの交流の活性化や地域の課題解決につなげることで、持続可能なまちづくりの一端となることを期待します。

地域に根差した緑や花の楽しみづくりについて

- ・近年、各区でオープンガーデンが活発に開催されるなど、地域と連携した緑化が着実に進んでいることを評価します。

事業③について

保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成について

- ・小学校、中学校や高校などへの情報提供を強化し、周知の浸透を図ることで、教育現場がこの事業をさらに利用しやすくなるよう努めてください。

◆ 柱3についての評価・提案

- ・取組ごとに情報を必要としている方々が違うことを認識し、アプローチの仕方を再検討してください。また、これまでに情報提供を行っていない民間施設や大学等へのアプローチについても、積極的にお願いします。
- ・取組の評価を行う際には、「直接的にまたは間接的に、この取組に誰がどれほど関わったか」など、人を対象にした新しい指標があつてもよいと考えます。
- ・緑を通じてコミュニティを広げていくために、まちを「つくる」という視点から「使う」という視点に転換することが重要だと考えます。

「緑をつくる」施策を検討する部会 部会長コメント

横浜市のみどりの政策は、全国的にも先進的であり、市民のみなさんの意識も非常に高いと思います。各目標に対しても、ほぼ達成できています。特に今回は、報告様式の重複部分を省くなどの読みやすさと効率化の工夫も素晴らしいと思います。取組を効果的に進めるためには、状況の変化に応じてニーズがなくなった取組の整理も重要だと思います。ただ、解決できていない問題点や課題がわかりづらい、必要な人に必要な情報が十分に届いていない、という点でまだまだ工夫の余地があると思います。

私たち委員も、活動の場や 2027 年に開催される GREEN×EXPO 2027 において、快適な緑の環境づくりを広げていけるお手伝いができればと思います。

竹内 智子



(4) 効果的な広報の展開

取組の内容や実績について、より多くの市民・事業者の皆様に理解されるとともに、緑を楽しみ、緑に関わる活動に参加していただけるよう、広報媒体の特性を生かし、効果的な情報発信を推進。

事業①

市民の理解を広げる広報の展開



図書館でのポスター掲示

2024年度実績報告書 関連ページ



●取組の評価・検証
p.3-64～p.3-66



イベントでの PR
(里山ガーデンフェスタ)



イベントでの PR
(よこはま生物多様性フェスティバル)



区役所での PR

◆ 施策についての評価・提案

- ・広報や発信においては、情報の源流をどのようにつくり、それを様々な手法で市民に伝えるといった情報流通の戦略が非常に重要です。
- ・広報を通じて、みどりアップ計画によりどのような恩恵を得ているのかという実感を市民にもつてもらうことが大切です。実績数値を伝わりやすくする表現の工夫や、市民の声をたくさん拾うなど共感を得られるような定性的な表現も加えていくといいと考えます。
- ・取組においては、教育現場などの他事業との関わりも大きいことから、こういったつながりを生かした情報発信について検討すべきと考えます。作成した「よこはまこどもみどりアップリーフレット」を学校の教材として活用してもらうなどして、教育現場で横浜の緑をテーマに考えてもらうような能動的な発信を行い、横浜の緑の取組への関心が広がること、理解と共感が深まるることを期待します。

今年度より新たな横浜みどりアップ計画市民推進委員による広報・見える化部会を開催しています。市民として、みどりアップ計画の取組目的、各事業内容や実施施策を知れば知るほど、市民として受けている恩恵の大きさに気づく機会になっています。そして、6名の市民委員が共通して実感していることが、みどりアップ計画に関する認知度が低く、もったいないと感じていることです。

今年度より特に、横浜の未来をつくる若者、子育て世代の認知度向上を目的にした広報のあり方、ターゲットにしつかり情報が届く情報流通の手法について検討し、市民委員からも市民の視点で提案をしています。学校、大学とも連携し、みどりアップの理解、共感の輪を広げ、市民参加型で未来の横浜のみどりを守る取組に進化していくことに期待しています。

大竹 千広



委員からの意見の反映について

- ・市民推進会議からの評価・提案はこれまで行ってきましたが、それがどのように計画に反映されているのかが不明瞭に感じます。計画への反映方法とその見せ方を整理する必要があるのではないかでしょうか。

報告書の構成について

- ・みどりアップ計画実績報告書及び市民推進会議報告書の構成の見直しは非常によい取組です。今後も常に現状の見直しを行い、より良い方法を模索し続けてください。

実績の評価・検証について

- ・目標値を達成できなかった取組については、その原因を検証し、目標値と予算の妥当性等も含めて検討が必要です。市民推進会議においても、今後議論していくべきだと考えます。
- ・実績報告から、しっかりと網羅的に実績を積み上げていることが伝わってきました。対象場所の選定理由や取組の効果を伝えることで、市民へのPR効果も高まるのではないかと思います。

5 市民推進会議委員名簿

横浜みどりアップ計画市民推進会議 委員名簿(2024年10月)

(50音順・敬称略)

役 職	氏 名	区 分	備 考
	池島 祥文	学識経験者	横浜国立大学大学院 教授
座長	池邊 このみ	学識経験者	千葉大学 グランドフェロー
	石原 信也	関係団体	横浜商工会議所 産業振興部長
	岩本 誠	関係団体	三保市民の森愛護会 会長
副座長	内海 宏	学識経験者	(株)地域計画研究所 代表取締役
	大竹 千広	公募市民	
	金井 順	公募市民	
	河原 真友子	公募市民	
	菊池 賢児	関係団体	横浜市町内会連合会 幹事
	北原 まどか	公募市民	
	小金井 進	関係団体	横浜農業協同組合 営農部長
	酒井 智規	公募市民	
	竹内 智子	学識経験者	千葉大学大学院 准教授
	飛田 尚弥	公募市民	
	野路 幸子	関係団体	横浜市中央農業委員会 委員
	樋上 祐造	関係団体	よこはま緑の推進団体連絡協議会 会長
	望月 正光	学識経験者	関東学院常務理事、関東学院大学名誉教授

「森を育む」施策を検討する部会 名簿

役 職	氏 名	区 分	備 考
	石原 信也	関係団体	横浜商工会議所 産業振興部長
	岩本 誠	関係団体	三保市民の森愛護会 会長
	酒井 智規	公募市民	
	飛田 尚弥	公募市民	
部会長	望月 正光	学識経験者	関東学院常務理事、関東学院大学名誉教授

「農を感じる」施策を検討する部会 名簿

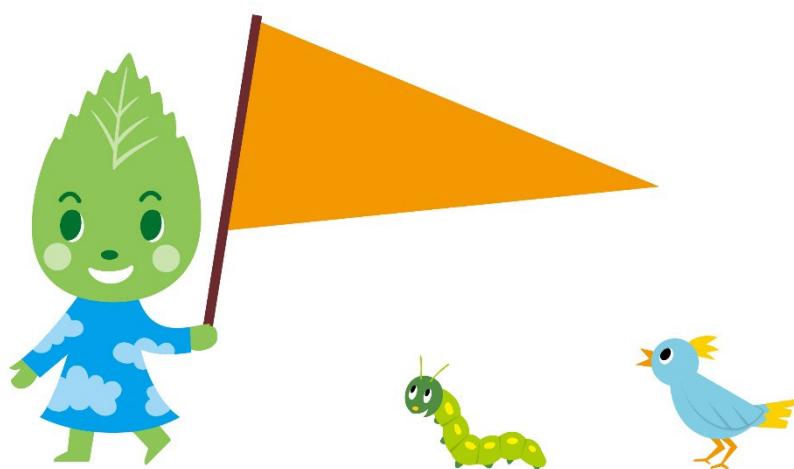
役 職	氏 名	区 分	備 考
部会長	池島 祥文	学識経験者	横浜国立大学大学院 教授
	大竹 千広	公募市民	
	河原 真友子	公募市民	
	小金井 進	関係団体	横浜農業協同組合 営農部長
	野路 幸子	関係団体	横浜市中央農業委員会 委員

「緑をつくる」施策を検討する部会 名簿

役 職	氏 名	区 分	備 考
	金井 順	公募市民	
	菊池 賢児	関係団体	横浜市町内会連合会 幹事
	北原 まどか	公募市民	
部会長	竹内 智子	学識経験者	千葉大学園芸学研究院 准教授
	樋上 祐造	関係団体	よこはま緑の推進団体連絡協議会 会長

広報・見える化部会 名簿

役 職	氏 名	区 分	備 考
部会長	大竹 千広	公募市民	
	金井 順	公募市民	
	河原 真友子	公募市民	
	北原 まどか	公募市民	
	酒井 智規	公募市民	
	飛田 尚弥	公募市民	
	望月 正光	学識経験者	関東学院常務理事、関東学院大学名誉教授



6 市民推進会議委員からのコメント

市民推進会議の委員を務めてきたなかで感じたことや、生活の中で、みどりについて日ごろ感じたことについて、委員からのコメントです。

内海副座長コメント

みどりアップ計画は、三期 15 年を終え、4 期目の最初の 2024 年度を振り返る時期を迎えています。担当部署や関係住民等のご尽力で大きな成果を上げた一方で、課題も見えてきています。

特に、緑地保全策では用地買収の比重が高くみどり税の6割以上が使われています。しかし、市民にはその効果が見えず、緑地保全を実感できる施策(自然観察会や森散策会等)の拡充が課題です。第二に、農景観や農体験等を実感する施策も数々の成果を上げていますが、その脇にある集団農地が資材置き場団地に転用される状況が進行し、農地自体を保全する施策との連携が課題です。第三に、緑花施策では公共緑化とともに民有地緑化(地域緑のまちづくり事業等)が補助制度の組み換え等で実績を上げてきましたが、より小さな地域のメニュー追加(コミュニティガーデン・チ花壇等)など選択肢を増やすことが課題です。

石原委員コメント（「森を育てる」施策を検討する部会 所属）

「横浜みどりアップ計画」を通じて、横浜の緑を守り育てる多様な取組が進められていることに、大きな意義を感じています。

都市における緑は、生物多様性の保全だけでなく、人々の心身の健康や地域のつながりを育む重要な存在であり、まちの魅力や価値を支える基盤であると考えます。

2027 年には国際園芸博覧会(GREEN×EXPO 2027)が開催され、横浜の“みどりのまちづくり”が国内外に発信される絶好の機会となることが期待されます。

その実現には、市民・行政・事業者が一体となって、常に“みどり”を意識し、関わる機会を増やすことが何よりも重要であり、そうした意識を一人でも多くの皆様に持っていただけるよう、今後も活動を続けて参りたいと思います。



岩本委員コメント（「森を育てる」施策を検討する部会 所属）

横浜みどりアップ計画 柱1に「市民とともに次世代につなぐ森を育む」という計画があります。行政の方々、地権者、愛護会、自治会等、多くの組織団体の協力で樹林地の保全・維持管理が進められています。森の利用の仕方も多種多様で、近隣、団地、自治会等の市民の方々は、毎日一人、又は数人で散策やジョギング等いろいろな形で森を利用してあります。遠方より定期的に市民の森へ来られる方もいます。

来園者の意見として、森の効用もいろいろあり、森に入ると心身ともに健康になる、また来たいという声を多く聞きます。そして、みどり税を継続して、次世代へ(孫子の代まで)この里山の原風景や貴重な動植物を大事にしてもらいたいという市民の声が多く聞かれます。

今後も私共市民の森愛護会含めて、関係者みんなで安全・安心・快適な森になるよう維持管理に努めて行きたいと思います。

大竹委員コメント（「農を感じる」施策を検討する部会、広報・見える化部会 所属）

都市計画の中で農地と住宅地が融合したまちづくりをしている横浜だからこそ、田畠が目立たなく、横浜は農業がさかんであること自体認識がない市民が多いのが現状です。田畠は食の生産機能以外にも多面的な機能があります。みどりアップ計画を通じて、市民ニーズに応じた農を感じる制度設計がされていますが、横浜で農家さんが農業を続けられように、市民の農地の多面的機能理解につながるような取組にも期待しています。

例えば、遊休地をスクールヤード化し、幼少期から農を感じるような仕組みづくりや農家さん以外の農に興味関心のある人やはまふうどコンシェルジュなどの制度もうまく活用した農を感じる場作りに関わる人材の確保など、今ある制度もうまく組み合わせながら、地域実装を加速化する取組が増えしていくことに期待をしています。

金井委員コメント（「緑をつくる」施策を検討する部会、広報・見える化部会 所属）

市民委員を経験させて戴いたことで市内の緑地維持及び拡大事業の大切さを改めて痛感しております。

一方、横浜市が自ら指摘されている様に、市民の認知度アップが思う様に進まない現実があります。この問題の解決は難しい様で視点を変えれば比較的容易に解決する様にも感じています。それは、様々な企画やイベントに対して双方向の対話を徹底する事ではないでしょうか？

例えば市内の全小学校に配布されている小冊子に質問コーナーを設けて、生徒のみならず保護者の方からも何らかのフィードバックを受ける事です。更に総合的な学習の時間でみどりアップ事業の対象となっている森や公園或いは農地を見学してもらいその成果をまとめて市役所に送ってもらう、更に優秀作品の学校の代表に市役所に来てもらい市長と会食しながら、意見交換をする等。これには教育委員会への働き掛けも必要でしょう。やれる事は沢山残っている筈です。これを中学、高校大学あるいは、自治会と対象を広げる事で様々な新たな可能性が生まれるものと料する次第です。

今年は、時間も限られていますが、認知度の低いみどりアップの活動を市民委員が取材すると言うプロセスもいささか寂しいものがあります。来季に向けて市役所の側からより積極的な Action Plan の策定を期待する所大であります。

河原委員コメント（「農を感じる」施策を検討する部会、広報・見える化部会 所属）

市民推進委員に任命され、横浜みどりアップ計画の内容を改めて深く知ることができ、とても素敵な計画であると感じています。

他都市よりもさきがけ、みなと横浜のイメージが強い中で、農・森・緑の「みどり」に特化し、市民のゆとりにつながる計画であり、日本の未来を豊かにする取組であると誇りに思います。しかし、まだまだこの取組が市民に浸透していないことが大きな課題です。未来の横浜のために、小中高等学校での教育とみどりを結びつける活動をもっと積極的にかつ広範囲に利用できる、幅の広さと弾力性に富んだ活用しやすい仕組みになるように期待したいと考えます。人口も多い横浜の一握りの子どもたちが体験している過去の行事をただ踏襲するのではなく、小さな経験でも、一人でも多くの子どもたちの心に「横浜のみどり」を刻めるような機会が増えることを願います。

菊池委員コメント（「緑をつくる」施策を検討する部会 所属）

政策の重点や市民の満足度は、モノづくりから人づくりへと変換すると思います。市民同士の話し合いが横浜市のパワーアップにつながるのです。

人口減少や地域の昼間の居住者縮小などの時代の変化を踏まえて、今後はより未来志向の検討の追加が必要になるのではないでしょうか。

例えば、大人も子供もコミュニケーションを取りやすいウォーカブルなまちづくりに寄与する【小エリア】を対象としたスペースを確保し、緑化による木陰をつくる検討をすることも一案です。

他にも、地域緑化のような市民が創造する身近な事業は、地域市民が十分に検討して応募できるよう、市民に寄り添った仕組みが構築することを期待します。

北原委員コメント（「緑をつくる」施策を検討する部会、広報・見える化部会 所属）

GREEN×EXPO 2027 が横浜で開催されるにあたり、横浜が世界に発信すべきところはなんだろうとよく考えています。

最も誇りに思うところは、横浜の美しい公園や市民の憩いの場の花壇、緑道の整備などが市民参画で行われていることではないかと思います。また、横浜みどり税によって、直接的なアクションが難しい人や世代でも、誰もが横浜の緑を守り育むことに貢献できる。目的と使途が明確な直接税がいかに活用され、横浜の緑を未来につないでいけるかを評価・検証して、発信していく市民委員の活動は、これから横浜の自治や社会参画を育む上でも、とても大切なものだと感じています。

小金井委員コメント（「農を感じる」施策を検討する部会 所属）

横浜は神奈川県内で最も農業が盛んな地域ですが、担い手不足等により耕作面積は減少傾向にあります。横浜みどりアップ計画の取り組みは、農地や緑地を単なる都市の空間としてではなく、地域の環境資源や市民交流の場としている点がとても魅力的であり、都市農業と緑地の一体化に大きく貢献していると評価できます。

農業関係の委員として、持続可能な都市農業に向けた施策の充実についての要望に加え、多くの市民の皆さまの参加によって、さらに緑豊かで食と農を身近に感じられるコミュニティづくりに取り組むことがとても重要と考えています。

自然環境と農業は互いに支え合う関係にあり、適切な管理も必要になります。この計画を通じて、地域の自然や農業の持つ多面的な役割に目を向け、継続的に守り育てていく意識が高まっていくことを期待しています。

酒井委員コメント（「森を育む」施策を検討する部会、広報・見える化部会 所属）

自然保護活動への学生の関わり方に関心があり、本会議に参加させていただきました。参加前は、横浜の緑の保全に関する政策や取組に触れる機会が少なかったのですが、会議や視察を通じて横浜市が多岐にわたる施策を進めていることを知り、非常に学びの多い時間となりました。中でも、実際に市内で行われている緑化イベントや自然体験の場など、「知っていれば参加したかった」と思うような取組が多く、こうした活動がもっと広く市民に知られることの重要性を実感しました。

学生の目線からは、森や自然との関わり方が分からず、関心はあっても行動に移せない人が多いと感じています。特に若い世代にとっては、自然の中で過ごすことの魅力を体験し、楽しみながら関わるような入り口が求められています。近年ではマウンテンバイクやトレイルランなど、新しい自然の使い方も増えていますが、それに伴って従来の利用者とのトラブルも生じており、多様な立場の共存とルールづくりが今後の大きな課題だと感じます。

この計画が未来の世代にも開かれたものとなり、市民一人ひとりが自然とより深く関わる社会になるよう、引き続き関心を持ち続けていきたいと思います。

飛田委員コメント（「森を育む」施策を検討する部会、広報・見える化部会 所属）

委員1年目です。常日頃から森林関連の活動を横浜市内・神奈川県内で共に行っている仲間に、みどりアップ計画市民推進会議の委員になったと報告すると、悲しいことに「それは何？」のような答えがかえって来ることが珍しくありませんでした。「みどりアップの名前は聞いたことがあるが」も日常です。前任の皆様のご苦労を受けてのこれですから、皆様からのご理解をいただくのは大変なことなのだと知りました。横浜市を住みよい街にしている環境への施策が知られていないのは大変残念なことです。

私がどこまでお役に立てるかは現時点では不明ですが、できる範囲でみどりアップ計画へのご理解が広がるよう、お手伝いさせていただきます。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

野路委員コメント（「農を感じる」施策を検討する部会 所属）

先日、横浜産「オリーブ油」の生産者の方のお話を聞く機会がありました。

この方は、「オリーブ油」を作る為、オリーブ生産の小豆島に何回も研修に行き、始めた当初は大変なこともあったそうですが、荒廃農地や、次世代がいない農地を借り、栽培を広げたことで、やっと製品にしたそうです。

販路も確保されているようなので、今後「浜なし」と同様に横浜ブランドになると確信しています。

今、県外からも横浜に農業法人が参入して来ますが、地元で育つ企業を大事にしていきたいと思いました。

権上委員コメント（「緑をつくる」施策を検討する部会 所属）

2017年横浜開催の全国都市緑化フェア以降、市民が実感できる街づくりが進んでいると実感しています。特に、地域に根差した緑や花の楽しみづくりは18区で着実に進められています。

山下公園・日本大通り・里山ガーデン・都心臨海部の公園をはじめとして、18区内のよこはま緑の推進団体700団体余が植栽管理している花壇は地元住民に癒しを与えています。また、港北区・旭区・栄区などの推進団体は行政との協働でオープンガーデンの開催が定着。この機運は他区へ波及しつつあります。

私たち、よこはま緑の推進団体の緑花活動はみどりアップ計画そのものではないかと感じます。まずは、GREEN×EXPO 2027の機運醸成が今後の課題と位置付けます。



7 広報・見える化部会からの情報提供

ソーシャルメディア note への記事掲載



◆人生の節目のお祝いに、緑を！
おうちで育てる人生記念樹（2025年8月掲載）

https://note.com/yokohama_m_act/n/n7cf4ec238898





横浜みどりアップ 葉っぴー

2025年10月発行
横浜みどりアップ計画市民推進会議